

(1) これまでの検討について

■ 令和6年8月 新庁舎整備に関する基本構想

【新庁舎の目指すべき姿】

- ・あらゆる災害に対応できる庁舎
- ・市民が利用しやすく、質の高い行政サービスが提供できる庁舎
- ・まちの賑わいに貢献し、まちづくりの核となる庁舎



■ 令和8年1月 新庁舎整備基本計画(素案) ※第6回新庁舎整備基本計画検討分科会

【新庁舎コンセプト】

・森のようにひととまちを そだて・つなぎ 熊本城 とともに まもり・あゆむ

【基本理念】

- ・あらゆる災害からまもり様々な状況に柔軟かつしなやかに対応する庁舎
- ・全ての人を使いやすくアクセスしやすい、居心地が良く快適な庁舎
- ・多様な場所や空間があり、交流・共創と賑わいを生み出す庁舎
- ・森の都の景観と調和し、地域の歴史を継承し文化を創出する庁舎
- ・恵まれた環境や限りある資源を活かし、育み、永く使うことができる庁舎

【新庁舎の機能】

- ・防災機能
- ・手続・相談機能
- ・執務機能
- ・交流・共創機能
- ・駐車場機能 等

(2) 必要床面積及び概算工事費について

■ 令和8年1月 庁舎整備に関する特別委員会

新庁舎(本庁舎・議会、中央区役所の2棟)の必要床面積・概算工事費を提示

- ・**新庁舎の機能から必要床面積を計75,000㎡と設定**。基本構想時点の計70,300㎡から+4,700㎡(+7%)
- ・他都市事例を参考に118万円/㎡と設定し、工事費を885億円と試算。基本構想時点の421億円から+464億円(+110%)



■ 市議会や市民からのご意見

床面積や工事単価の精査の必要性や市財政を懸念

床面積	<ul style="list-style-type: none">・物価が高騰してこれだけ事業費が増えるのであれば、コンパクト化や節約についても検討したのか。・広い方が市民にとっても良いというのはわかるが、これだけ単価が上がってる。もう一度、よく精査していただきたい。・DXや市役所業務改革などの専門家にも参画いただき、無駄のない床面積とすべき。
工事費	<ul style="list-style-type: none">・工事単価の118万円は、熊本で整備する庁舎の単価として妥当なのか。・単価を少しでも抑えていくという形の中では、もう一度、よく精査していただきたい。・工期が延びれば必ず工事費用は上がる。工期の短縮を考えなければならない。
市財政	<ul style="list-style-type: none">・地方財政に詳しい専門家に意見を伺うことも必要ではないか。・財政への理解を得るための中長期の財政見通しを示す必要がある。

(3) 新庁舎整備の基本的な考え方について

熊本地震は、住宅や道路などの被害にとどまらず、行政機能そのものが災害によって機能不全に陥り得るという重大な課題を明らかにした。

現在の庁舎は、耐震性能不足や浸水対策の面で課題を抱えており、大規模災害時に防災拠点としての機能を継続できないリスクがある。災害時においても行政機能を確実に継続させることは、市として果たすべき最低限の責務と考えている。

自然災害は、いつ発生するかわからず、現庁舎が抱えるリスクを認識したまま対応を先送りすることは、将来世代に大きな危険と負担を残すことになる。さらに、建設コストの上昇が続く中、合併推進債などの有利な財源を活用できる期間には限りがある。

新庁舎の移転建替えに伴い、本市の一等地に1万㎡の広大な敷地が創出されることは、都市として大きな転機となり得ることから、本市としては、民間の投資意欲の高まりを適切にとらえ、後押しし、新たな需要を連鎖的に引き出していかなければならない。

熊本市は、熊本地震の教訓を風化させることなく、行政機能を止めないという使命を果たすため、検証を尽くし、責任ある判断と説明を行いながら、新庁舎整備に取り組んでいく。

(4) 新たな検証会議体の設置について

